

若葉

第18号

神戸大学医学部小児科学教室同門会

平成2年

神戸大学医学部 小児科学教室



中村 肇 教授



村上 龍助 助教授



松尾 雅文 講師



吉川 徳茂 講師

神戸大学小児科は前身の神戸医科大学小児科以来その同門 300 余名が臨床・研究および教育に励んだ伝統ある教室です。当教室は鈴木・平田・松尾各前任教授の指導のもと医育機関として臨床・研究および教育はもちろんのこと地域小児医療の拡充にも取り組んできました。こうした伝統のもと、昭和64年1月1日をもって中村肇教授が当教室を主宰されるところとなられ、中村教授はまさに産声を上げられたところであり、今後の発展が大きく同門生のみならず全国の小児科医からも期

待されております。

神戸大学小児科では平田名誉教授・松尾名誉教授とともに新生児学を中心とした診療・研究を実施され、その成果はわが国における新生児学に数々の輝かしい業績をもたらしてきました。なかでも、昭和51年には6つ子として誕生した出生体重が僅かに620gの超未熟児の保育が成し遂げられたことは、それまでの教室における新生児・未熟児の診療・研究の集大成ともいえるものであります。さらに、これら実績を踏まえた上で出生前からの治



教室員（外来棟前）



教 官

教授を語る



埼玉医科大学
総合医療センター小児科
教授 小川 雄之亮

中村肇教授は本年1月に母校神戸大学小児科学講座の主任教授に就任された新進気鋭の教授である。

中村教授は先代平田、先代松尾両教授の指導を受けられ、両教授の専門であった新生児学を専攻されて、数々の素晴らしい業績を挙げられた。特に新生児の高ビリルビン血症におけるアンバウンド・ビリルビンの測定に関しては第1人者であり、教授の開発されたアンバウンド・ビリル

ビン測定装置“UB Analyzer”は有名である。私共は、出身の教室同志が新生児学をメインテーマにしており、お互いほぼ同世代であるところから、昔から今日に至るまでずっと仲よくお付き合いさせていただいている。

教授は若い頃フランスのバリに留学され、Minkowski教授に師事された。小児科医、特に新生児を専門にするものの仲間ではフランス語の出来るものは少なく、国際派の中でもきわめて貴重な存在である。そうかと云って英語が苦手であるというのではなく、このところアメリカ小児科学会にはほとんど毎年出席され、英語で堂々と討論しておられるので、我々の仲間の中では数少ないTrilingualistである。

神戸大学小児科は新生児学研究の伝統のある数少ない大学の1つである。新進気鋭の中村教授のもとで益々大きな成果があがり、わが国の新生児学をリードされるものと期待される。

療を目指した診療施設として昭和59年に神戸大学に国立大学として初めて母子センターが開設されました。ここでは、小児科と産婦人科・外科が一体となって生まれ来る新生児を胎児期から診療するもので、少産少死の時代にマッチした診療施設として各方面から注目を集めています。この様に神戸大学小児科は日本の新生児学を常にリードしてきたものと自負出来るところであります。

このたび、中村教授が就任されこれまでに築か

れた教室の伝統を元に21世紀にマッチした診療研究教育体制を確立するべく、先進的なプロジェクトが新たに芽吹きつつあります。1つは、人工臓器時代を迎えつつあり、その前段階の医療としての臓器移植です。従来より当教室が中心となって腎臓移植が行われてきましたが、最近では骨髄移植も行われてきています。臓器移植は自然が造り上げた免疫能に対する挑戦であり、その成果はまさに現代科学の粋を集めたもので、今後の発展が



教授外来



教授回診



モーニング カンファレンス



母子センター

大いに期待されるところです。

また1つは、小児科医が最も深く関る先天異常すなわち遺伝子の問題です。最近の遺伝子工学の進歩と関わらずに小児科の診療を行うことが困難な時代を迎えつつあり、子供の発育・発達を遺伝子レベルから解明し、症状記載的な小児の疾病を遺伝子とその発現機構の異常から解明しようとする研究です。その成果は今までの疾病の概念を変える可能性も秘めていて、この様な事を夢見つつ、当教室員一同は昼夜区別なく一生懸命働き、夢を現実のものにしようとしております。

現在の教室のスタッフは教授1、助教授1、講師2、助手6、大学院生7、医員8、研修医16の総勢41名です。現在の診療・研究の中心は新生児を基礎とした発育・発達、神経、腎臓、および血液・悪性腫瘍であり、病床数は小児一般病棟に38床、母子センター新生児部門に20床を有しております。

週間行事としては火・金曜日の回診、火曜日午後の研究会、金曜日午後の臨床カンファレンスがあり、中村教授就任後には火曜日にモーニングカンファレンスとして教官全員と研究発表者1名が集まり朝8時から1時間ゆっくりとしかも奥深い研究内容の検討会があり、各発表者からは地獄の朝と恐れられております。

また、神戸という港町の性格から常に世界に向けた視野があり、神戸大学医学部には附属施設として医学研究国際交流センターが設置されていて、この国際交流センターの活動の一環としてわが小児科もフィリピン大学小児科およびインドネシアのガジャマダ大学小児科と共同研究を推進し、定期的にお互いの医師の交流を図っています。

関連病院は兵庫県下を中心に東は大阪府の高槻病院、西は広島県の呉共済病院まで広がり、その数は約50病院となり、同門生が地域医療に深く貢献しております。



症例検討会



病棟(無菌室)



研究室(ガスクロ)

<中村肇教授就任記念講演会、懇親会>

平成元年4月15日、オリエンタルホテルにて先生方の協力を得て開催されました。同門会参加者203名、招待参加者43名で計250名の参加者があり盛大なものとなりました。講演会では中村肇教授が「教授就任にあたって」という演題で将来の抱負について講演されました。又招待演者は日本大学名誉教授の馬場一雄先生、東京女子医科大学教授の福山幸夫先生で、それぞれ「これからの小児科学、小児医療について」「小児神経学の進歩」というテーマで御講演いただきました。御二方とも新生児学、神経学の分野では大御所的存在である事は周知の事ですが、素晴らしい講演に会場の先生方も熱心に聞きおられました。講演会の後、懇親会を行いました。中村肇先生の教授就任祝賀の会であり、奥様にも御参加いただき和やかな内に進行了しました。アトラクションの部では荒木先生が日本舞踊「黒田節」を披露して下さい、一段と雰囲気盛り上げていただきました。

<同門会学術活動について>

先に記しました如く、世話人会を開き今迄別々に行われていた各勉強会を、神戸大学医部中央診療棟4階で（但し腎生検カンファレンスは病理カンファレンス室、病棟地下1階）曜日も金曜日、時間は6時30分からと固定して行う事となり、早速平成元年度から実施しています。現在行われている勉強会は、腎生検カンファレンス、タラムス会、兵庫県新生児未熟児懇話会、GEM、兵庫心臓病懇話会、兵庫アレルギー懇話会などです。半年間の予定表を組んで関連の先生、病院へはお送りしていますが、参加者は多ければ多い程大歓迎ですので、奮って御参加下さい。日時や内容等につき御質問の際には村上龍助迄（Tel. 341-7451 内 5722）御連絡下さい。

<若葉編集会議>

平成元年10月12日、編集会議を開きました。今後、若葉が多くの方々に親しんでいただけるように、大学だけでなく色々な先生方に原稿をいただけるように努力するべきである事が確認されました。

神戸大学小児科研究グループ紹介

新生児グループ

松尾 雅文

新生児学についてはこの1年間も多くの研究が成されており、その成果は日本の新生児学の牽引者的役割を担ってきております。ここでは、研究内容の詳しいことには触れず、診療の成果の一つである母子センター5周年の集いについて報告します。

新生児医療は出生前から始まるとの指摘はしばしばされておりましたが、その具体策として

の産科と小児科の合体した病棟の設立は多くの小児科医の夢でありました。神戸大学に産科と小児科の合体した母子センターが設立されたのは昭和59年5月で、新築された中央診療棟に母子センターとして病棟を構えました。そして、本年はれて満5周年を迎え、母子センターを巣立って5才に成長した子供達の会合を開催する事となった。

当日は身体計測・診察をするのみならず、出席されたお母さん方に育児の体験を話し合ってもらい、お母さん方のコミュニケーションの促進を計りました。母子センターの出身ということで皆さんそれぞれに何等かの心配ごとを抱えて

の育児で、精神的な悩みが非常に強いようでありました。当日出席の中で最も小さく生まれ、約1年間呼吸管理を受けていた子供が元気良く走り回っている姿を見ると、新生児医療に携わ

ってきた医師の冥利を味わうことができました。

今後、父母の会などが組織されるより充実したフォローアップ体制の確立を計る所存であります。

神経グループ

高田 哲

(1)診療

〈外来〉月・金の午前診を、高田・中山・八木・常石の4名で担当しています。現在、定期的を受診している患者さんは約400名です。

〈病棟〉一般病棟は中山、母子センターは八木が主治医となって種々の神経疾患を受け持っています。24時間脳波、ビデオ脳波、8ミリビデオ等を積極的に利用して病態の正確な記録・分析に力を注いでいます。

血液・悪性腫瘍グループ

村上 龍助

大石先生・瀬尾先生が培ってこられた血液、悪性腫瘍の流れを引き継ぎ、1年前より研究グループとして発足しました。現在スタッフとしては村上龍助、佐野彦彦、小阪嘉之、郷司純子、池田和茂、相原浩輝（現第2生化）です。現在は臨床的にも充実させなければならない時期にもあるため、その目玉として骨髄移植を始めました。又骨髄移植の出来ない患児では末梢血幹

(2)研究

臨床的研究として、トポグラフィーを用いた新生児脳波分析を八木が、ALDの極長鎖脂肪酸分析を中山がおこなっています。基礎的研究としては、高田と常石が、神経系の発達についてmRNAレベルよりの解析をおこなっています。現在、デキサメサゾン投与が脳発達に及ぼす影響、ビリルビン脳症の発症機序について研究をすすめています。

木曜（隔週）午後3時より、横山、松井両先生と一緒に入院患児のミニカンファレンスをおこなっています。お気軽にお立ち寄り下さい。

細胞移植も行っています。未だ始めたばかりですから、施行症例数は少ないですけど、今後頑張っていくつもりです。研究面では、佐野先生が生化で長年にわたり勉強してきた知識を生かして神経芽細胞腫に対する研究を行っています。又最近移植後のリンパ球機能に関して免疫的検討を開始しました。

以上我々のグループの紹介をしましたが、未だ若い研究グループであり、今後先生方の御指導、御鞭撻をお願いする次第であります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

腎グループ

吉川 徳茂

現在大学では、医員の太田、八若、大学院生の田中と私が腎疾患の研究、診療を行っています。毎週火曜日6:30～7:30勉強会をし、吉矢河原、北川、小林、北野、亀田先生はほぼ毎回参加しています。毎月最終金曜日6:30～8:00は腎生検カンファレンスを行っています。12月には100回目になります。

〔診療〕

病棟には兵庫県下の病院から紹介していただきました腎不全、ステロイド抵抗性ネフローゼ、腎生検目的等、腎疾患の患児が約15人ほど入院しています。11月20日には腎生検も1,000例に達しました。これまで大きな事故もなく幸いでした。3年前にはじめて小児腎移植も軌道にのり、今年は体重9kgの子供を含む5例に腎移植を行ない全例生着しています。腎外来は水、土曜の午前におこなっています。腎疾患の診療は24時間体制で行っていますので、いつでも気軽

に御連絡下さい。

〔研究〕

私共はこれまでネフローゼ症候群患児のリンパ球はラットに注入すると蛋白尿をきたす糸球体基底膜透過性亢進因子を産生していることを明らかにしてきました。この因子がネフローゼの病因物質と考えられます。現在腎グループ全

員でこの因子の精製、構造決定にとりくんでいます。この3年間に先生方から御連絡頂いたネフローゼ新発症例も100例近くにになりました。私共の研究がここまでできましたのもひとえに、先生方の御協力によるものと感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

新入局員のひとこと

平瀬 明彦

新入医局員の一言を述べる前に、この度は神大医学部小児科学教室及び諸先生方に大変御迷惑をおかけし、誠に申し分けなく思っています。現在は安静を第1と考え一日も早く職場復帰したいと考えております。

さて、6月に入局し早くも5カ月がたってしまいました。全く無の状態からスタートし9月からは国立神戸病院の方にお世話になり、大学と関連病院の症例等の違いにも大変驚いています。しかし、唯一の共通点として特に小児科分野において、患者の治療はもちろんの事ですが、家族とのコミュニケーションの大切さを感じています。家族に対して、いかにうまく病状を説明し、本人よりもむしろ家族全体が一丸となってその病気に取りくんでいくかという事です。まだまだ私達には、上手に説明する事ができませんが、家族の苦勞、家庭環境を考え、いかに上手に説明できるかを私も病態についてはもちろんの事、一層勉強にはげみたいと思っています。

症例	伊藤 誠子 26才 F
主訴	睡眠発作、早朝覚醒不良
家族	父に内科医(+)
既応	21才時、過食症となったが自然治癒。以後時折過食発作(+)

現病 昨年10月頃(卒業試験中)よりC.Cに気付いたが放置、今年4月頃いったん自然治癒したが、6月頃より再び自覚症状出現、睡眠発作は、火、金曜の16時30分ごろよく出現する。

現症 低身長(-1SD)の他特記事項なし。

検査 多血症(Ht50%)の他特記事項なし。

上記の症例につき、今後貴科にて末長くフォロー下さいます様おねがい申し上げます。

中西 浩一

平成元年5月8日、研修医生活の第一歩を踏み出したのは、よく晴れた清々しい春の日でした。緊張で息が詰まりそうになりながらも、伝統ある神戸大学小児科に入局できた喜びをひしひしと感じていました。半年たった今でもその思いは色褪せることなく、充実した毎日を過ごすことができます。学生の頃には実際の医療の様子がよく分らないので何か漠然としていて、霧の中に居るような感じがしていました。実際に働きだしてみると、医師という職業は思ったよりずっとすばらしく、やり甲斐があり、急に視野が開けたような気がします。

しかし、まだまだ未熟で知らないこと出来な

いことだらけです。一人前の小児科になれるように、一步一步着実に知識と経験を積み重ねていきたいと思います。

諸先輩方、これからも御指導よろしくお願ひ申し上げます。

藤 崎 淳 子

私が数多くの科の中から小児科を選んだのは、障害をもってNICUに入院していたベビーが、病気とたたかいながら青年、成人へと育ていく過程で何か役に立てる仕事をしたいと思ったからです。研修医になってようやく7か月になったところですが、小児科の中でなら、一生の生きがいとなるような仕事をきっとみつけることができるだろうと思っています。

小児科は範囲が広く、又それぞれ奥が深く、難しい分野だと思います。勉強すべきことは本当に山ほどあると思います。一日もはやく、一人前の医者になりたいとあせる気持ちもあるけれど一步一步着実に進んでいこうと思っています。

相 馬 収

働き始めて数ヶ月しかたちませんが、学生の頃が遠い、遠い、昔、昔、のように感じます。早寝遅起の生活から遅寝早起の生活となり、一日四食が一日二食となりました。ついこの前までは最高学年であったのが、一番の新米となり、おい、お茶と言っていたのが、おい、お茶と言われる立場になりました。毎日ボーッと生活していたのが、ピーンとはりつめた生活になりました。

などなどずいぶんと生活が変わりましたが、今の生活にも慣れて元気ががんばっております、今後ともよろしくお願ひいたします。

西 村 範 行

『あっ』という間に半年が過ぎてしまった。『小児科医になったんだ』と思い切り肩に力を入れて研修を始めた。肩には力が入るのだが、要所には力が入らず、空回りを続けている。採血・点滴・ルンバルといった新しい処置があ

るたびにドキドキし、気負い過ぎて失敗している。そもそも小児科を志望したところから気負っている。学生時代、友人と一緒に日曜学校の教師をしていた。その中で3人の姉妹が僕だけに妙になつてくれた。夏のキャンプに行ったときなどは、朝から寝てしまうまで、『遊ば』と言っては僕を追いかけ回してくれた。ここから僕の思い込み三段論法が始まる。『僕は子供に人気がある』そして『僕は医学生である』よって『僕は小児科医になるべきだ』（友人もなかなか思い込みが強く、牧師・教師・弁護士にそれぞれ思い込んでなっている。）

今後共よろしく御指導お願ひします。

石 垣 智 永 子

毎日が、学生時代とは比べものにならない程時間に追われる日々なので、しばしばゆっくり自分を振り返ることも忘れてしまいます。できることなら、いろいろなことから、自分自身からも適切な距離だけ離れて、良い芽を育てて、理想とするところのもの（それが何であるのかはっきりとした形はわかりませんが）に近づいていきたいと思っています。

Sが宇宙船であるように、Mが医学であるように、初心を忘れずにいたいと思います。

どうぞよろしくお願ひ致します。

吉 村 竜 太

国家試験も終わり、希望に胸をふくらませ入局した5月、自分を待っていたものは夜間分泌の嵐でした。そしてその嵐が止んだと思えば、今度はベビーの雷でした。時には産声に泣かされ、産声のない時はもっと泣かされ、涙も枯れ果てて家路についたものでした。今、自分は10階にいます。嵐、雷がおさまったのもつかの間今度はヘモネ台風が1号、2号とやってきました。ずぶぬれになってしまいました。傘も満足にさすことができません。かっぱを着こまれた先生もおられます。その上に更に傘をさされている先生もおられます。早く傘だけでもさせるようになりたい自分です。今後共よろしくお願

い申し上げます。

赤木 秀一郎

今春、金沢大学を卒業し当小児科学教室に入局させて頂きました。学Ⅳの夏休みの西医体の一週間程前に、中村先生にお会いした際「うちは楽しいとこやから、国家試験にパスして早よおいで」とおっしゃられ、期待と希望に胸をふくらませて神戸に帰って来ました。幸い良き先生方、良き同僚の仲間たちに恵まれ、充実した楽しい毎日を送っており、たいへん満足しております。ただ、半年の間に女装してのシンデレラ、カレーパンマン、サンタクロース、海亀をいじめる少年を演じるとは全く予期していませんでしたが…。子供たちを相手にしていると仕事のきつい時でもそれを忘れさせてくれることが多いと思います。多くの科の中から小児科を選び本当に正解だったと思っております。学生の時は野球に明け暮れ、よく遊びよく眠り、再試も多く受けましたが、これからは精進して、良き医師・立派な社会人を目指していきたいと思っております。宜しくお願い致します。

奥谷 貴弘

自分の父がこの小児科出身ということもあって、小学校の頃から将来は神戸大の小児科に行く、なんて言っていたものでした。それが全くその通りになっているのです。しかし大学時代は自分は本当に医者になりたいのか、文学部を再受験しようか等真剣に悩んだものです。ところが医学の世界はそれをひきとどめるだけのパワーがありました。(それとも自分が弱かったのか?)とにかく大学時代ろくに勉強もせず空手やバンド他音楽ばかり聴き狂ってましたので、医学の基礎知識が限りなくゼロに近く、病棟で四苦八苦しています。8ヶ月たった今も上の先生方をはじめ看護婦さんたちからも、ほとんど信頼されていないことに気づき、少し落胆しています。やはり自分はまだまだ青二才だなと思います。

しかしそれに負けずに医者に信頼される医者

をめざして自分なりに精一杯がんばりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

表利 良彦

思い返してみますと、私が医師になろうと明確に目標を立てたのは、高校に入ってからであり、医師に憧れを抱いていたのも、幼い頃から両親に「医者になれ、医者になれ」となかば、洗脳されていた感じも多分にあるように思います。

神大医学部に入学してからは、特に微生物学に興味を覚え、基礎配属実習では、微生物学教室にてインフルエンザウイルスのポイントディスカッションや麻疹ウイルスの終生免疫などの研究を手伝わせていただき、大変有意義だったと思いました。

そんなこんなで、私が小児科に入局したのは、感染症としての微生物に興味があったためと、ひとつでも多種多様な疾患について学びたいと思ったからです。他の科では、第Ⅰ～第Ⅲ内科も含めて、1人の人間全体をみるにあたり、専門化してしまっていて、どうしても1部しか深く勉強できないような気がしました。

入局後は、神経グループの先生のもとで勉強をはじめましたがここで脳に障害を持つ児の原因が周産期に多いこと、精神発達遅滞など診断はできても、その児の成長に医師として、どのような援助ができるのか、無力感も感じました。しかし1,000g未満の超未熟児であっても、すくすくと発育・発達をしてゆくところ、また障害を持っているとしても種々の援助によって伸びてゆく様子をみられることは、小児科を選んでよかったと思うところです。

川越 宏幸

去年の5月に入局以来、はやくも8ヶ月がたちました。汗と涙と笑いの毎日で、研修の日々が過ぎていきます。

研修1年目から大学→国立神戸病院と充実した日々を送ることができ、指導して下さる先生方に感謝感謝の日々です。

子供相手の日々は、難しいことも多いですが、やりがいのある仕事だと思います。少しでも多くの症例にあたって、患者さんからいろいろな事を学んでいくことで、少しでもはやく一人前の小児科医として医療に従事できるよう、がんばりたいと思います。

指導して下さる先生方には色々と御迷惑をおかけすることと思いますが、よろしくおねがいいたします。

村田 由香利

はじめまして。私は平成元年度入局の研修生の村田由香利と申します。昭和7年9月24日生まれのでんびん座でO型です。結構、気が小さいわりに楽道家ののんびり屋です。おかげで医者になるのも少し(?)遠廻りしてやっと昨年自分で銭をかせげるようになりました。医者になろうと思うようになったいきさつというものが、全くありませんで、自分でも何でなろうと思ったのが不思議です。

中学・高校と落ちこぼれていた私が医者になろうとは、昔の私を知る人には想像もつかなかったでしょうね。大体、大学に入ってから「あんたは医者になるとは信じられん。」とか言われておりました。結局、医者になってしまい、大変不屈きなことをしているのではないかと、内心恐れながらもせめて外見ぐらいは医者らしくしようと奮闘しておりますが、なかなか、知らないことをつっこまれると、思わずあせったり、冷汗をかいております。

どうかよろしく願い致します。

新谷 幸弘

「なまけもの」という動物は、本当は働きものだったりするそうですが、人間のなまけものは、どんなに働いても所詮はなまけものです。こまねずみのようにチョコマカと身体だけはどうにか動かしている研修医の自分にとって、学生の頃の怠情な生活はまるで別次元の事のように思われます。しかし、人間の本質というものはそんなに簡単に変わる訳でもなく、どうして

もしわ寄せが私生活へといってしまう。自分の場合下宿をしているのですが、7月頃から4ヶ月間、自慢になりませんが一度も洗濯をしたことはありません。病院へ来る途中にローソクでパンツとくつ下を買うのが日課となっていました。店員にはまた来たという眼で見られるし、給料はパンツ代に消えるし、こんな生活をしていたのは僕だけでしょうか?

おかげでパンツの数だけは誰にも負けません。来年はどんな一年になるか楽しみです。

森 裕美子

皆さま、はじめまして。

小児科での研修が始まってから、もう半年以上が過ぎてしまいました。月日の経つのがはやいことに不安を覚えながら、諸先生方はじめ、病院のさまざまなスタッフの方々に教えられ、子どもたちに励まされる(どちらが患者かわかりません)毎日です。

生まれたての赤ちゃんから思春期の少女まで1人1人全くちがった人を前にして、驚きと冷や汗の連続です。末永く(子ども子どもまで)子どもを診てゆきたいなと思っています。これから、多大なご迷惑とお世話をかけるでしょうが、皆さまどうかよろしくお願い致します。

大橋 明

医師という職業についてはや8カ月という月日がたとうとしていますが、8カ月前と較べ少しはましになったかなーと思う今日この頃です。

学生時代はクラブに明け暮れ毎日合宿しているような生活でしたので社会人になってからはギャップが大きすぎて、はたしてこのままやっていけるかどうか不安の連続でした。

現在は神鋼病院に出向中ですが、オーベンの先生方に迷惑のかけっぱなしで毎日恐縮の連続です。

医学の道にまだはいっていない状態ですが何とかがんばっていきたいと思います。